

福祉ボランティア大会開催

6グループが交歓

福祉ボランティア大会（福祉部会主催）が1月15日午後、学習室で開催され約40人が参加しました。〈わ〉の福祉部会の活動を知ってもらい、各サークルの交流を図ろうとの趣旨で、今回が2回目。

1部は、パワーポイントを使って活動紹介。友愛訪問グループは、明生園もみじ会・一寸奉仕・クレヨン・あんだんての4つで、滝谷グループホームと、さおり・たまもの2つは、障害者の自立支援をお手伝いしています。高齢者施設での手助けは真愛ホーム介助。昨年発足したエンジェル支援の会は、手工芸作品を販売し子どもたちへの支援活動を行っています。

休憩をはさんで、2部は友愛訪問グループのパフォーマンス。明生園もみじ会の4人（宮城智子・門脇淳子・黒田宏・近森八重子さん）は、息もぴったりで、歌あり、ゲームありの多彩なプログラム。会場も一緒になって盛り上がりました。一寸奉仕からは、アンパンマンとバイキンマンに扮した増金スミ子さんと横井幸雄さんが、音楽に合わせてアンパンマンダンスを披露。魔女に扮して登場したのはクレヨンの北川景子さん。ミステリアスな語



りで笑いをとったあとは、嘉野喜代子さんの川柳クイズで頭の体操です。あんだんては、朗読からスタート。紙芝居「注文の多い料理店」では、4人（植村勝・山本麗子・片岡祥夫・東恭土さん）が、メリハリのある声色で会場を魅了しました。

3部は、会員同士のコーヒブレイク。和気あいあいの交流を楽しみました。会場前の廊下には、8グループの活動状況が写真や作品とともに展示され、来場者に福祉部会をアピール。エンジェル支援の会の即売は、「布ぞうり3点とアームカバー1点が売れましたよ」。

加藤部会長は、「交流の成果はあったが、在学生の参加が少なかったことが残念。参加してもらえよう工夫が必要ですね」と反省しきりでした。＝写真は明生園もみじ会の活動発表

（広報・井口久美子）

第3回 学習支援者の集い



平成25年度第3回“学習支援者の集い”が2月20日、31人が参加してカレッジの5・6教室で開催されました。西田委員長の挨拶、開会宣言後、2学期の活動報告がありました。

続いて事務局の田阪リーダーから市内の小学校の関係者に配布する支援内容・支援要請書類の説明がありました。

この後、教育委員会特別支援教育課の古本主事から子どもへの支援についての講演がありました。「子どもの行動の背景には意味があるということを知り、気になることに気づく目を持つことが大切であり、特に、目に見える障害（身体的、知的障害）、目に見えない障害（発達障害＝脳の機能的な障害）の特性を理解し、適切な支援を行うこと。本当のボ

ランティアによる支援とは障害の有無にかかわらず、子ども一人一人を受け入れ、子どもの「？」を「！」にする言葉をかけたり、寄り添ったり、言葉と視覚による支持を与え、行動を引出し、目的と一貫性のある対応をすることが大事だ」という内容で、参加者は熱心に聞き入っていました。（広報・北村洋）

「お買いものサポーター」継続

須磨パティオの「お買いものサポーター」は、昨年11月と2月の試行を経て、この5月から正式に実施されることになりました。毎木曜日の10時30分～16時で、年間を通して実施。パティオライフ（小冊子）やホームページなどで、利用を呼びかけるPRもしま

す。サポーターとして、「求められているサービスは何か」を探りながら、気軽に快適に利用してもらえよう努めていきたいと話しています。

